改訂版教科書の教授資料，さらに使いやすく！

～実際の紙面でご紹介～

数研出版 編集部

§1．改訂版教科書の教授資料

昨年秋に発行した数研通信１１３では

『改訂版教科書の教授資料，さらに使いやすく！』

と題して，改訂版教科書の教授資料の新たな要素などをご紹介いたしました。

その際，検討中であった内容もあり，紙面などを「イメージ」としてご紹介していたものもありました。

2026 年春，改訂版教科書数学ＩＡの教授資料を発行し，すでにお手元でご利用いただいている先生方も多いのではないかと存じます。

この特集記事では，改めて，特にご利用いただきたい教授資料の要素を「実際の紙面」や「実際の画面」を用いてご紹介いたします。

「もうすでに使っているよ」と思われる先生もいらっしゃるかもしれません。しかし，改訂版教科書の教授資料では非常に豊富な資料やデータをご用意しています。この記事をお読みいただくことで，

「そんな資料があったのか」

「このデータはこういう場面で利用できるかも」

といった新たな発見をしていただき，実際の授業でお役立ていただきたいと思います。

§2．学習評価に役立つ課題例

現行課程の学習指導要領において 3 つの観点

「知識・技能」

「思考・判断・表現」

「主体的に学習に取り組む態度」

に整理された観点別評価に関して，学校ではさまざまな取り組みがなされています。

特に，「主体的に学習に取り組む態度」の評価に関しては，どのように行うか迷われる先生もいらっしゃるのではないかと思います。

そこで，改訂版教科書の教授資料では「主体的に学習に取り組む態度」などの評価にも役立つ課題例を，教授資料別冊の

『学習評価に関する参考資料』

（学習評価サポートブック）

に収録いたしました。

課題例の内容についてご説明いたしますと，

1 つの課題例は

「課題」，「ルーブリック」，「指導用資料」

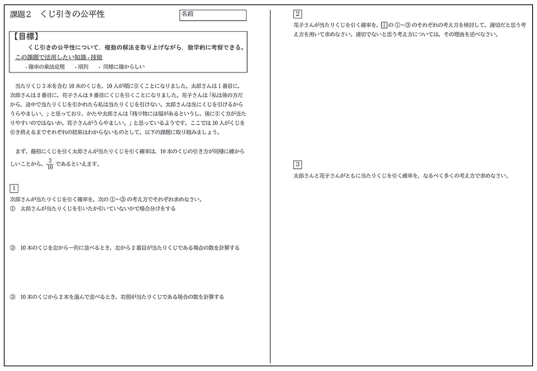
で構成されます。

それぞれの要素の詳細は以下の通りです。

課題……目標 → 問題 → 振り返り で構成。

問題 は答えがただ 1 つに定まる形式に限らず，生徒さん自身の言葉で記述させるような問題も掲載。

振り返り で課題の内容を振り返り，得た知見を深めたり，その後の学習改善に繋げたりすることが狙い。


課題2　くじ引きの公平性　　名前

【目標】
くじ引きの公平性について，複数の解法を取り上げながら，数学的に考察できる。
この課題では活用したい知識・技能
・確率の基本性質　・期待　・同様に確からしい

当たりくじ 3 本を含む 10 本のくじを，10 人が順に引くことになりました。太郎さんは 1 番目に，次郎さんは 2 番目に，花子さんは 9 番目にくじを引くことになりました。花子さんは「私は後の方だから，途中で当たりくじを引かれたら私は当たりくじを引けない，太郎さんは先にくじを引けるからうらやましい」と思っており，かたや太郎さんは「残り物には福があるというし，後に引く方が当たりやすいのではないか，花子さんがうらやましい」と思っているようです。ここでは 10 人がくじを引き終えるまでそれぞれの結果はわからないものとして，以下の課題に取り組みましょう。

まず，最初にくじを引く太郎さんが当たりくじを引く確率は，10 本のくじの引き方が同様に確からしいことから，$\frac{3}{10}$ であるといえます。

1
次郎さんが当たりくじを引く確率を，次の①～③の考え方でそれぞれ求めなさい。
① 太郎さんが当たりくじを引いたか引いていないかで場合分けをする

② 10 本のくじを左から一列に並べるとき，左から 2 番目が当たりくじである場合の数を計算する

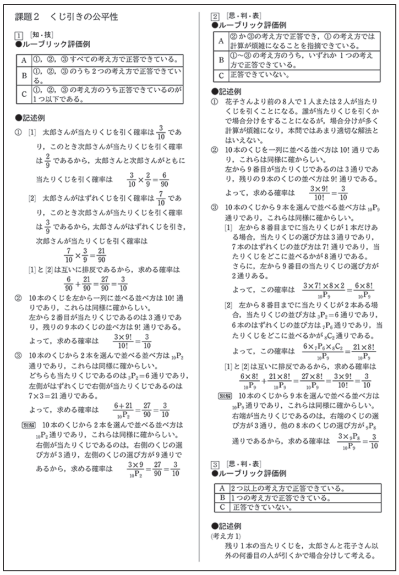
③ 10 本のくじから 2 本を選んで並べるとき，右側が当たりくじである場合の数を計算する

2
花子さんが当たりくじを引く確率を，1の①～③のそれぞれの考え方を検討して，誤りだと思う考え方を用いて求めなさい。誤りでないと思う考え方については，その理由を述べなさい。

3
太郎さんと花子さんがともに当たりくじを引く確率を，なるべく多くの考え方で求めなさい。

（教科書『数学 A』の課題 2「くじ引きの公平性」）

ルーブリック……「ルーブリック」と「記述例」（解答例）で構成。すべての 問題 と 振り返り について，ルーブリックと記述例（解答例）を用意。特に，振り返り のルーブリックは，「主体的に学習に取り組む態度」の評価に活用可能。


課題2　くじ引きの公平性

1 ［知・技］
●ルーブリック評価例

A	①，②，③すべての考え方で正答できている。
B	①，②，③のうち2つの考え方で正答できている。
C	①，②，③の考え方のうち正答できているのが1つ以下である。

●記述例

① 1 太郎さんが当たりくじを引く確率は $\frac{3}{10}$ であり，このとき次郎さんが当たりくじを引く確率は $\frac{2}{9}$ であるから，太郎さんと次郎さんがともに当たりくじを引く確率は　$\frac{3}{10}\times\frac{2}{9}=\frac{6}{90}$

2 太郎さんがはずれくじを引く確率は $\frac{7}{10}$ であり，このとき次郎さんが当たりくじを引く確率は $\frac{3}{9}$ であるから，太郎さんがはずれくじを引き，次郎さんが当たりくじを引く確率は

$$\frac{7}{10}\times\frac{3}{9}=\frac{21}{90}$$

1 と 2 は互いに排反であるから，求める確率は

$$\frac{6}{90}+\frac{21}{90}=\frac{27}{90}=\frac{3}{10}$$

② 10本のくじを左から一列に並べる並べ方は 10! 通りであり，これらは同様に確からしい。
左から2番目が当たりくじであるのは3通りであり，残りの9本のくじの並べ方は 9! 通りである。
よって，求める確率は　$\frac{3\times 9!}{10!}=\frac{3}{10}$

③ 10本のくじから2本を選んで並べる並べ方は ${}_{10}P_2$ 通りであり，これらは同様に確からしい。
どちらも当たりくじであるのは ${}_3P_2=6$ 通りであり，左側がはずれくじで右側が当たりくじであるのは $7\times 3=21$ 通りである。
よって，求める確率は　$\frac{6+21}{{}_{10}P_2}=\frac{27}{90}=\frac{3}{10}$

別解 10本のくじから2本を選んで並べる並べ方は ${}_{10}P_2$ 通りであり，これらは同様に確からしい。
右側が当たりくじであるのは，右側のくじの選びかが3通り，左側のくじの選び方が9通りであるから，求める確率は　$\frac{3\times 9}{{}_{10}P_2}=\frac{27}{90}=\frac{3}{10}$

2 ［思・判・表］
●ルーブリック評価例

A	②か③の考え方で正答でき，①の考え方では計算が煩雑になることを指摘できている。
B	①～③の考え方のうち，いずれか1つの考え方で正答できている。
C	正答できていない。

●記述例

① 花子さんより前の8人で1人または2人が当たりくじを引くことになる。誰が当たりくじを引くかで場合分けをすることになるが，場合分けが多く計算が煩雑になり，本問ではあまり適切な解法とはいえない。

② 10本のくじを一列に並べる並べ方は 10! 通りであり，これらは同様に確からしい。
左から9番目が当たりくじであるのは3通りであり，残りの9本のくじの並べ方は 9! 通りである。
よって，求める確率は　$\frac{3\times 9!}{10!}=\frac{3}{10}$

③ 10本のくじから9本を選んで並べる並べ方は ${}_{10}P_9$ 通りであり，これらは同様に確からしい。
1 左から8番目に当たりくじが1本だけある場合，当たりくじの選び方は3通りであり，7本のはずれくじの並び方は 7! 通りであり，当たりくじをどこに並べるかが8通りである。
さらに，左から9番目の当たりくじの選び方が2通りある。
よって，この確率は　$\frac{3\times 7!\times 8\times 2}{{}_{10}P_9}=\frac{6\times 8!}{{}_{10}P_9}$
2 左から8番目までに当たりくじが2本ある場合，当たりくじの並び方は ${}_8P_2=6$ 通りであり，6本のはずれくじの並び方は ${}_6P_6$ 通りであり，当たりくじをどこに並べるかが ${}_9C_2$ 通りである。
よって，この確率は　$\frac{6\times {}_8P_2\times {}_9C_2}{{}_{10}P_9}=\frac{21\times 8!}{{}_{10}P_9}$
1 と 2 は互いに排反であるから，求める確率は

$$\frac{6\times 8!}{{}_{10}P_9}+\frac{21\times 8!}{{}_{10}P_9}=\frac{27\times 8!}{{}_{10}P_9}=\frac{3\times 9!}{10!}=\frac{3}{10}$$

別解 10本のくじから9本を選んで並べる並べ方は ${}_{10}P_9$ 通りであり，これらは同様に確からしい。
右端が当たりくじであるのは，右端のくじの選びかが3通り。他の8本のくじの選び方が ${}_8P_8$ 通りであるから，求める確率は　$\frac{3\times {}_8P_8}{{}_{10}P_9}=\frac{3}{10}$

3 ［思・判・表］
●ルーブリック評価例

A	2つ以上の考え方で正答できている。
B	1つの考え方で正答できている。
C	正答できていない。

●記述例
（考え方 1）
残り1本の当たりくじを，太郎さんと花子さん以外の何番目の人が引くかで場合分けして考える。

指導用資料……教科書との対応や指導方法，課題の狙いや 振り返り の意図などを記載。


課題2　くじ引きの公平性
指導用資料～教科書 数学 シリーズ対応～

課題の狙い

くじ引きは，前に引いた人の結果がわからない場合，どの順番に引いても確率は変わらない，というくじ引きの公平性に関する課題である。公平性の把握に加えて，順列を用いた別解を考えさせることにより，それが比較的容易に理解かつ利用させることが目的である。

1 の①～③について検討させる場面が肝であるが，生徒たちにとっては課題文の抽象度が高く感じる可能性がある。当たりだけで解決が難しいようであれば，適宜教師がヒントを与え，正しく発想できるように促しながら学習を進めさせることが望ましい。

実施可能時期

例 p.68　例題 21 学習後

1
① くじ引きの基本的な問題である。確率の乗法定理を活用する。
② 10本のくじをすべて一列に並べる考え方である。順列の考え方を利用する。
③ 太郎さんと次郎さんが引く2本のくじを並べる考え方である。

2
1 の①～③の考え方をふまえて，9番目にくじを引く花子さんが当たりくじを引く確率を，どの解法で解くのが妥当かを検討する課題である。
①の解法をとると，誰が当たりくじを引くかで場合分けをすることになるが，これでは場合分けの数が多くなり，あまり計算には進さないことが考えられる。ただし，後述の 発展 のように場合分けの仕方を変え，断化式を考えればさほど計算は大変ではない。
②や③の解法をとると，くじを事前に並べる考え方を用いることにより，先に9番目の花子さんに当たりくじを振り分けると考えればよいため，結果として太郎さん，次郎さんが当たりを引く確率と同じく $\frac{3}{10}$ であることがわかる。

3
太郎さん，花子さんがともに当たりくじを引く場合の確率を，1 の①～③の考え方をふまえながら，なるべく多くの考え方で取り組んでもらう課題である。
①の解法をとると，太郎さん，花子さん以外に当たりくじを引く人は残り1人であるため，場合分けは 2 とは異様ではない，計算式を書き出すと，積の順序を入れ替えた同じ形が3つ並んでいるだけに退さないとわかる。ただし，2 の①をふまえてこの計算方法を「退切でない」と判断し，取りくじ，といだろう。
②の解法をとると，1 番目と9番目に当たりくじを振り分けて ${}_9P_2$ 通り，残りの8本のくじを並べて 8! 通り，というように，順列の利用で学習する問題の応用だと考えればよい。このことを理解すれば，たとえ太郎さんと花子さんが別の順番になったとしても，2人とも当たりくじを引く確率は同じであることもわかるであろう。
③ についても基本的な考え方は ② と同様である。このことからも，太郎さんと花子さんが別の順番になったとしても，確率は同じとなることが理解できるだろう。
なお，③ については，計算式をよく見てみると，① の考え方で分母と分子を別々に計算しているものであるとわかるだろう。① と ② の考え方は本質的に同じである。2 では ② の考え方を省略したが，② の本解で特定の順列について考え，それが ① のどの場合にあたるのかを選択肢問題させてもよい。

～課題の振り返り～

◆振り返り 1 ◆
太郎さんも次郎さんも花子さんも，当たりくじを引く確率は $\frac{3}{10}$ であることがわかった。① の考え方では後の方に引く人の確率の計算が煩雑になるが，② ③ の考え方では計算方法が引く順番によらず同じようになり，計算しやすいことがわかる。

◆振り返り 2 ◆
「振り返り 1」をふまえて，太郎さんと花子さんの予想について話り合う指導する問いである。「振り返り 1」で明ね説明されていることもあるため，授業時間の兼ね合い等で本設問は省略してもよいだろう。

◆振り返り 3 ◆
当たりくじを引く確率が引く順番によらないことがわかったが，実は 2 人または 3 人が当たりくじを引く確率について，引く人数の順番によらず一様になることがわかる。そのことについて，これまでの課題の考え方から考えて説明させる問いである。
なお，どのような人数を選ぶ，その 2 人がともに当たりくじを引く確率は，1 ① の記述例 1 や 3 からわかるように $\frac{1}{15}$ である。また，どの 3 人を選んでも，その 3 人が全員当たりくじを引く確率は，例えば ③ の考え方を用いると，

$$\frac{3!\times 7!}{10!}=\frac{1}{120}$$

と計算できる。
例 p.68 の例題 21 では A，B の 2 人がくじを引く場合，関設の「引かる」では A，B，C の 3 人がくじを引く場合の確率（が等しいこと）に触れることのできる題材を扱っている。

発展 この課題を ① の「条件付き確率」で解決しようとすると計算が煩雑になる傾向にあるが，「数列」を学習後，漸化式を立てることによって解決を試みることができる。
k 番目の人がくじを引く（取りくじは 1 ～ n 本ある）。当たりくじが a 本あるとする。ただし $1\leqq k\leqq n$，$1\leqq a\leqq n$ とする。
$k=1$ のとき，1 番目の人が当たりくじを引く確率は $\frac{a}{n}$
$k=2$ のとき，1 番目の人が当たりくじを引き，2 番目の人が当たりくじを引く確率は $\frac{a}{n}\times\frac{a-1}{n-1}$
1 番目の人がはずれくじを引き，2 番目の人が当たりくじを引く確率は $\frac{n-a}{n}\times\frac{a}{n-1}$
よって，$k=2$ のとき，2 番目の人が当たりくじを引く確率は

$$\frac{a}{n}\times\frac{a-1}{n-1}+\frac{n-a}{n}\times\frac{a}{n-1}=\frac{a}{n}$$

$k=3$ のとき，3 番目の人が当たりくじを引く確率は
1 番目，2 番目の人がともに当たりくじを引き，3 番目の人が当たりくじを引く確率は $\frac{a}{n}\times\frac{a-1}{n-1}\times\frac{a-2}{n-2}$
1 番目，2 番目の人がともにはずれくじを引き，3 番目の人が当たりくじを引く確率は $\frac{n-a}{n}\times\frac{n-a-1}{n-1}\times\frac{a}{n-2}$
1 番目の人がはずれくじを引き，2 番目の人が当たりくじを引き，3 番目の人が当たりくじを引く確率は $\frac{n-a}{n}\times\frac{a}{n-1}\times\frac{a-1}{n-2}$
1 番目の人が当たりくじを引き，2 番目の人がはずれくじを引き，3 番目の人が当たりくじを引く確率は $\frac{a}{n}\times\frac{n-a}{n-1}\times\frac{a-1}{n-2}$
よって，$k=3$ のとき，3 番目の人が当たりくじを引く確率は

$$\frac{a}{n}\times\frac{a-1}{n-1}\times\frac{a-2}{n-2}+\frac{n-a}{n}\times\frac{n-a-1}{n-1}\times\frac{a}{n-2}+\frac{n-a}{n}\times\frac{a}{n-1}\times\frac{a-1}{n-2}+\frac{a}{n}\times\frac{n-a}{n-1}\times\frac{a-1}{n-2}=\frac{a}{n}$$

以上より，k 番目の人がくじを引く確率は $\frac{a}{n}$ であり，k 番目の人がくじを引く確率は，k の値によらず一様になることがわかる。

このような課題例を豊富にご用意しておりますので，レポートやプレゼンテーションの題材としてご利用いただき，それらを「主体的に学習に取り組む態度」の評価材料とすることができます。

§3. 単元テスト

「§2 学習評価に役立つ課題例」において，現行課程の観点別評価について触れました。この観点別評価については，単元ごとのテスト（単元テスト）を実施している学校もあるかと思います。

初版教科書の教授資料や指導者用デジタル教科書（教材）では，これまでも

『標準テスト』
（数学シリーズ，NEXT シリーズ，
高等学校シリーズ，新編シリーズ），
『確認テスト』（最新シリーズ），
『基本テスト』（新 高校の数学シリーズ）

のように授業において利用できるテストデータをご用意してきました。

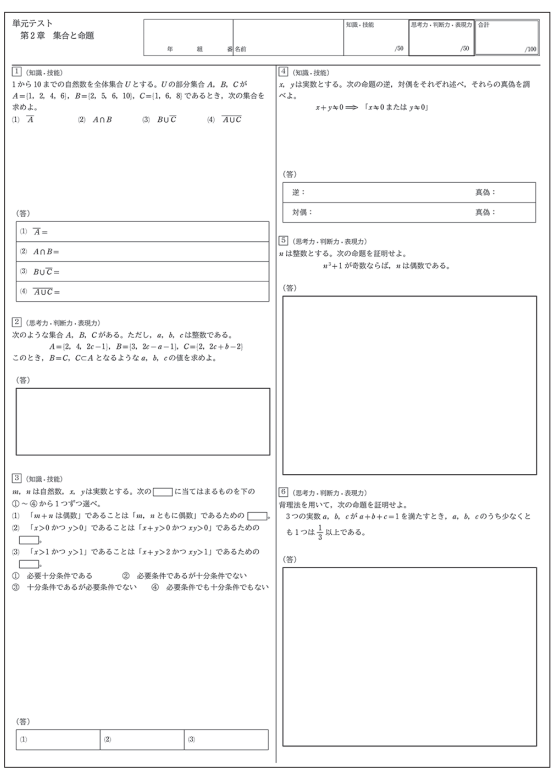
これらのテストに加えて，改訂版教科書の教授資料からは

『単元テスト』

もご利用いただけるようにいたしました。

単元テストの問題を掲載した観点別評価規準例もご用意いたしますので，単元テストの問題に対する評価の観点も提示しやすくなります。

○テスト紙面


単元テスト
第2章　集合と命題

年　組　番名前　　知識・技能 /30　思考力・判断力・表現力 /30　合計 /100

1 （知識・技能）
1 から 10 までの自然数を全体集合 U とする。U の部分集合 A，B，C が $A=\{1,\ 3,\ 4,\ 6\}$，$B=\{2,\ 5,\ 6,\ 10\}$，$C=\{1,\ 6,\ 8\}$ であるとき，次の集合を求めよ。
(1) $\overline{A}$　(2) $A\cap B$　(3) $B\cup\overline{C}$　(4) $\overline{A\cup C}$

（答）
(1) $\overline{A}=$
(2) $A\cap B=$
(3) $B\cup\overline{C}=$
(4) $\overline{A\cup C}=$

2 （思考力・判断力・表現力）
次のような集合 A，B，C がある。ただし，a，b，c は整数である。
$A=\{2,\ 4,\ 2c-1\}$，$B=\{3,\ 2c-a-1\}$，$C=\{2,\ 2c+b-2\}$
このとき，$B=C$，$C\subset A$ となるような a，b，c の値を求めよ。

（答）

3 （知識・技能）
m，n は自然数，x，y は実数とする。次の［　］に当てはまるものを下の①～⑥から1つずつ選べ。
(1) 「$mn+n$ は偶数」であることは「m，n ともに偶数」であるための［　］。
(2) 「$x>0$ かつ $y>0$」であることは「$x+y>0$ かつ $xy>0$」であるための［　］。
(3) 「$x>1$ かつ $y>1$」であることは「$x+y>2$ かつ $xy>1$」であるための［　］。
① 必要十分条件である　② 必要条件であるが十分条件でない
③ 十分条件であるが必要条件でない　④ 必要条件でも十分条件でもない

（答）
(1)　(2)　(3)

4 （知識・技能）
x，y は実数とする。次の命題の逆，対偶をそれぞれ述べ，それらの真偽を調べよ。
$x+y\neq 0 \Longrightarrow$ 「$x\neq 0$ または $y\neq 0$」

（答）
逆：　真偽：
対偶：　真偽：

5 （思考力・判断力・表現力）
n は整数とする。次の命題を証明せよ。
n^2+1 が奇数ならば，n は偶数である。

（答）

6 （思考力・判断力・表現力）
背理法を用いて，次の命題を証明せよ。
3つの実数 a，b，c が $a+b+c=1$ を満たすとき，a，b，c のうち少なくとも1つは $\frac{1}{3}$ 以上である。

（答）

○観点別評価規準例の一部

○条件の否定の意味を理解している。 ・例 11，練習 18 ◎「かつ」「または」を含む条件の否定を述べることができる。 ・例 12，練習 19 ◎命題の逆，対偶，裏を作ることができる。 ・例 13，練習 20 ・単元テスト（第 2 章）4	○「かつ」「または」を含む条件の否定を，ド・モルガンの法則と関連付けて説明することができる ・p.75 ◎対偶を用いて命題を証明することができる。 ・例題 1，練習 21 ・単元テスト（第 2 章）5 ◎背理法が適用できるように式を適切に変形するなどして，命題を背理法で証明することができる。 ・例題 2 ◎，練習 22 ・単元テスト（第 2 章）6	○直接証明することが難しい命題を，対偶や背理法などを用いて証明できないか考えようとする。 ・小項目 C，D，例題 1【？】，練習 21～22

教授資料付属の DVD-ROM には，数研出版発行の同じ科目の全シリーズの教科書データを収録しています。そのため，さまざまな難易度の単元テストのデータをご利用いただくことが可能です。
さらに，指導者用デジタル教科書（教材）には，Studyaid D.B. の PrinT ファイル形式のデータもご用意しています。生徒さんに合った単元テストを，データをもとに作成することも可能です。

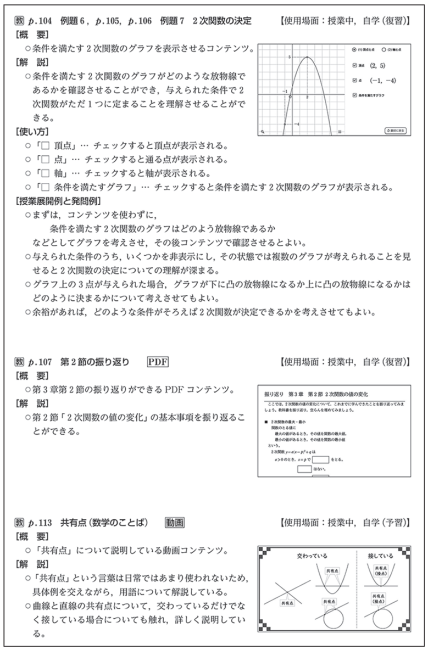
§4. デジタルコンテンツサポートブック

改訂版の教授資料では，コンテンツを利用した授業のために

『デジタルコンテンツに関する参考資料』
（デジタルコンテンツサポートブック）

を教授資料付属の別冊子として発行いたしました。

コンテンツの利用方法はもちろんのこと，コンテンツを利用した授業展開のヒント，生徒さんへの発問例など豊富な解説をご用意いたします。



（『改訂版　新編　数学Ⅰデジタルコンテンツサポートブック』）

数研出版発行の教科書では，紙面では見ることのできない図やグラフなどの動きをお見せするコンテンツはもちろんのこと，理解を深めるためのデジタルコンテンツ，生徒さんの興味を喚起する動画コンテンツなど，豊富なコンテンツをご用意しています。
「デジタルコンテンツサポートブック」掲載の解説をご覧いただくことで，授業展開をスムーズにすることや生徒さんの理解を深めることが可能となります。

§5. 付属データのダウンロード

これまでの教授資料では，付属データを教授資料の見返しに貼付した DVD-ROM に収録してきました。しかし，昨今は，DVD を読み込むことができない端末をご利用の先生方も増えてきており，ダウンロードによるデータ利用のご要望をいただくことも多くなってきました。

そこで，改訂版教科書の教授資料からは，
DVD-ROM に収録されているデータはすべて教員向けポータルサイト

「チャート×ラボ」（https://lab.chart.co.jp/）

からダウンロードすることができます。
また，改訂版教科書の教授資料より，

教授資料（本冊，別冊）の紙面 PDF

もダウンロードできるようにいたします。

これにより，タブレット端末で教授資料紙面の閲覧や付属データの利用も容易になります。

§6. 節末問題・章末問題の解説動画

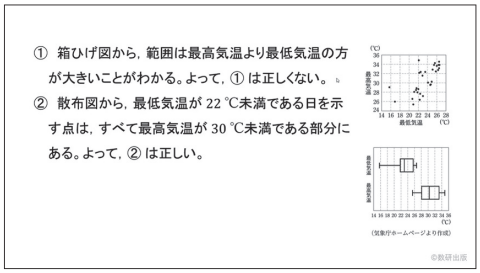
初版教科書の教授資料では，それぞれの教科書のすべての例，例題，応用例題，問の解説動画を配信にてご用意いたしました。改訂版教科書の教授資料においてもこれらの問題の解説動画は配信いたしております。これに加えて，

数学シリーズ，NEXT シリーズ，
高等学校シリーズ，新編シリーズ

の 4 シリーズでは，

節末問題・章末問題の解説動画

を配信にてご用意いたしました。



教科書の節末問題・章末問題は解かせたい問題も多いものの，そこまでは時間がなく取り組むことができないと考えている先生もいらっしゃるかと思います。

この節末問題・章末問題の解説動画を利用することで，節末問題・章末問題による生徒さんの自学自習も可能となります。

§7. Suken AI ナビ

改訂版教科書の教授資料をご採用いただくと，生成 AI を利用した Web アプリ

『Suken AI ナビ』

をご利用いただくことができます。

『Suken AI ナビ』では生徒さんが迷わず学習を進められるよう，目的に合わせた質問項目を用意しています。数学では

「解説して」「添削して」「用語を教えて」

の 3 つをご用意しました。

「解説して」

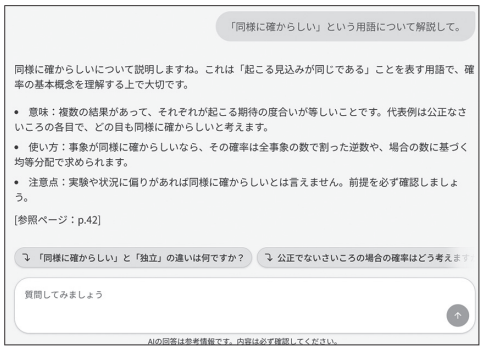
教科書のページや一部の範囲を指定して質問すると，内容を解説してくれます。数研出版の教科書に準拠した内容で回答するように設計されています。答えを教えるのでなく，解き方の道筋や考え方の流れを重視しています。

「添削して」

教科書のページや一部の範囲を指定して答案をアップロードすると，内容を添削してくれます。写真を撮るか，ファイルを選択してアップロードできます。どこで考え違いが起きているかに気づけるようにしています。再度添削することもできるので，納得がいくまで繰り返せます。

「用語を教えて」

数学の用語や公式について質問すると，教科書をもとに教えてくれます。回答の最後には教科書の参照ページが表示されます。その参照ページを教科書で読むことで理解の定着が図れます。



教授資料の巻末に記載された URL からアクセスし，同じく教授資料の巻末に記載されたシリアルナンバーを入力することで利用が可能となります。

また，URL，シリアルナンバーを記載したご案内の PDF データも，チャート×ラボからダウンロードすることができます。この PDF データを印刷して生徒さんに配付することも可能です。

『Suken AI ナビ』を利用することで生徒さん一人一人に合った学習が実現できます。

詳しいご説明を弊社ホームページにも掲載しております。右の QR コードからご確認いただけます。

「新たな発見」はありましたでしょうか。ご紹介してきましたように，改訂版教科書の教授資料は新たな解説や付属データをご用意することによって，さらに使いやすくなっております。

これらの解説や付属データを，ぜひ授業や授業準備等にお役立てください。

教授資料のラインアップや既刊商品の定価，教授資料の構成やデータの詳細などを弊社ホームページでもご紹介しております。

また，教授資料と指導者用デジタル教科書(教材)，Studyaid D.B. のセット商品もご用意いたします。

これらの詳細は，右の QR コードからご確認いただけます。

数研メルマガ
第211号/第213号
関連情報を配信
登録はp.5参照